

高梁川流域キッズ

たかはしがわりゆういき

高梁川流域ゆかりの

いじん けんじん とくしゅう

偉人・賢人特集



かつやく とし
活躍した年:

695~775年



かつやく ぶんや
活躍した分野:

がくしゃ
学者



ゆかりのある場所:

- ・まきび記念館
- ・阿藤伯海記念公園
- ・まきび公園
- ・やかげ郷土美術館
- ・下道氏墓

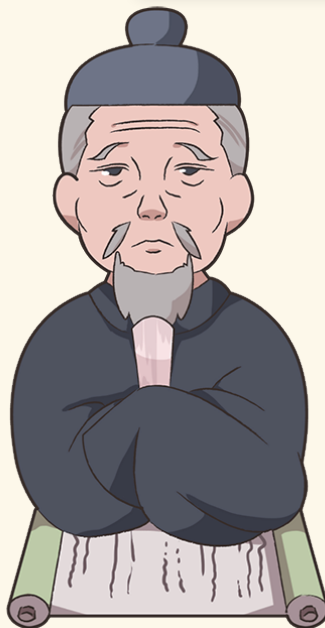


きびのまきび 吉備真備

新高総早
見梁社島
市市市町

倉矢
敷掛
市町

井浅里笠
原口庄岡
市市町市



きびのまきび こだいきび ごうそく しもつみちし しゅっしん な しもつみちのまきび げんざい くらしきまきびちょう
吉備真備は、古代吉備の豪族であった下道氏の出身で名は下道真備。現在の倉敷市真備町
ちょうめい かれ しゅっしんち ゆらい
の町名は、彼の出身地であることに由来します。

きびのまきび ようろうがん ねん さい あべのなかもろ けんとうりゅうがくせい
吉備真備は養老元（717）年、23歳のときに阿倍仲麻呂らとともに遣唐留学生として
とう わた じゅがくてんもんがく おんがく へいがく まな あと てんびょう ねん おお てんせき ぶぐ
唐に渡り、儒学、天文学、音楽、兵学などを学んだ後、天平7（735）年に多くの 典籍、武具、
がっき たずさ きこく くに いご がんそ い
楽器を携えて帰国しました。わが国における「囲碁の元祖」とも言われています。

てんびょう ねん きびのあそみ せい てんびょうしょうほう ねん さい
天平18（746）年、吉備朝臣の姓をもらいました。天平勝宝3（751）年、57歳
けんとうふくし よくねん ふたた とう わた
で遣唐副使となり、翌年に再び唐に渡りました。

しょうむてんのう めい う とう きよか ひみつり がんじん とう そうりょ にほん りっしゅう
聖武天皇の命を受け、唐の許可をもらうことなく秘密裏に鑑真（唐の僧侶、日本の律宗の
かいそ てんびょうしょうほう ねん きこく せいか かか きこくご
開祖）をつれて天平勝宝5（753）年に帰国しています。その成果にも関わらず、帰国後
きゅうしゅう てんびょうほうじ ねん さい ぞうとうだい
は九州にしばらくいることとなりますが、天平宝字8（764）年、70歳のときに造東大
じちょうかん にんめい へいじょうきょう かえ おな とし えみおしかつ らん こうせき てんびょうじんご
寺長官に任命されて平城京へ帰りました。同じ年の恵美押勝の乱で功績をあげ、天平神護2（7
ねん うだいじん りつりょう さんてい おお こうけん
66）年に右大臣となり律令の刪定に大いに貢献しました。

けんとうし にど にゅうとう あし ねんかんだいざい とうぶんか ゆにゅう
遣唐使として二度にわたり入唐（足かけ18年間滞在）し、唐文化の輸入につとめ、その
ちしき せいじ はんえい こうせき おお ぶき へいがく ぐんじかいかく
知識を政治に反映させていった功績は大きく、また、武器、兵学にもすぐれ、軍事改革にも
たずさ かんが
携わっていたと考えられています。